

ルール改正によるサービスの技術力と競技力の関係について

About the relation between technology and the game result of service by the rule revision

1K06A225

指導教員 主査 関一誠先生

松浦 翔

副査 矢島忠明先生

【目的】

2006 年、バドミントンは大きな転機を迎えた。I.B.F (国際バドミントン連盟) によって 2006 年 5 月 6 日、年次総会においてサービス権ポイント制からラリーポイント制へルール改正を行い、これまで地味で長かった試合時間が短縮され、激しくスピーディーなゲーム展開へと進化した。ルール改正に伴い、ゲーム展開が攻撃中心になった。今回は特にダブルスのサービスに注目し、研究を行うことにした。ルール改正後、サービスの規則が緩くなり、たえまなく攻守を立て直しながら展開されるようになった。そこで、プレー中のサービスのデータから改善点と競技力の向上について考え分析及び研究を行った。

【方法】

男子の世界トッププレーヤー、大学体育会、高校生という 3 つのカテゴリーにおけるゲームデータを総合的に比較・分析した。ルール改正以前のデータとルール改正後のトッププレーヤーのデータはテレビで放映されたものを使用した。それ以外のデータ収集はいくつかの大会会場にて無作為に試合を選択・録画してそれをビデオ分析することで抽出した。抽出したデータはグラフ化して考察の材料とした。さらに、早稲田大学バドミントン部でアンケート調査を行い、その結果はサービステストの配点の材料とした。そのデータを用いてサービスの技術力と競技力の関係性について比較・分析する。これ

らのデータをカテゴリーごとに分析・比較することで、競技力向上の過程について考えを深めていくことを目的とし模索していく。

【結果・考察】

今回の結果からルール改正後のダブルスのサービスには変化が見られた。従来のルールではロングサービスを多用し、ショートサービスでもコースに打ち分けコートを広く使っていたが、現在のルールでは、攻撃することができないくらいに正確なサービスと相手のリズムを崩すサービスを用いて、ラリーの主導権を握れることが特徴として挙げられた。これはいかに正確で相手選手のリズムを崩しラリーを戦略的に戦っており、そこにポイントのプレッシャーがかかっているかということの表れである。また、サービスの技術力と競技力には相関関係を示した。これは、サービスからいかに優位に立ってラリーを展開するかが勝負の分かれ目になっているため、サービスの技術力が高いほど攻撃的な組み立てができるからだと考えられる。そしてこのことは、ダブルスにおいて、いかにサービスで相手のリズムを崩し主導権を握れるかが勝敗の鍵であるということも証明している。

【結論】

今回、ルール改正後のダブルスでサービスに変化が見られたが、結局はいかにサービス権を持っている時に連続ポイントを取れるかが勝敗の鍵であるという結論に行き着く。サービスは

ラリーの序盤を優位に進める一つ的手段にすぎない。だが、それが重要なのだ。サービスから戦略的に戦うことで、試合を常に優位に進めることができ、勝利へ近づくことができるのである。サービスとそこからの戦術・戦略をどれほど効果的にリンクさせていくか、これがダブルス競技力の向上の鍵である。